

鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方

1. 土地利用検討対象地の立地・概要及び周辺の現況・動向	P 1
2. 鹿児島駅周辺（上町地区）の鹿児島市上位計画における位置付け	P 2
3. 土地利用検討の経過と地域住民等からの提言・意見	P 3
4. 現況・問題点及び課題と対応方針	P 4
5. 土地利用の基本コンセプト・基本方針	P 5
6. 土地利用ゾーニング	P 6
7. 地域住民との意見交換会で出された意見と対応	P 7
8. 今後の課題	P 7
参考資料	P 8

平成24年3月

鹿児島市

1. 土地利用検討対象地の立地・概要及び周辺の現況・動向

土地利用検討対象地の立地・概要

- ・ 土地利用検討の対象地は、浜町1番4と浜町1番5の二筆である。
- ・ 浜町1番4はJR軌道敷と上本町磯線の間位置する間口約170m奥行約30mの敷地である。
- ・ 浜町1番5は鹿児島停車場線に面し、JR九州軌道敷とJR貨物ヤードに挟まれた位置にある間口約90m（奥の方は約20m）、奥行約400mの敷地である。
- ・ 浜町1番5はJR鹿児島駅から約50m、桜島フェリーターミナルからは約300mの位置にある（最短直線距離）。

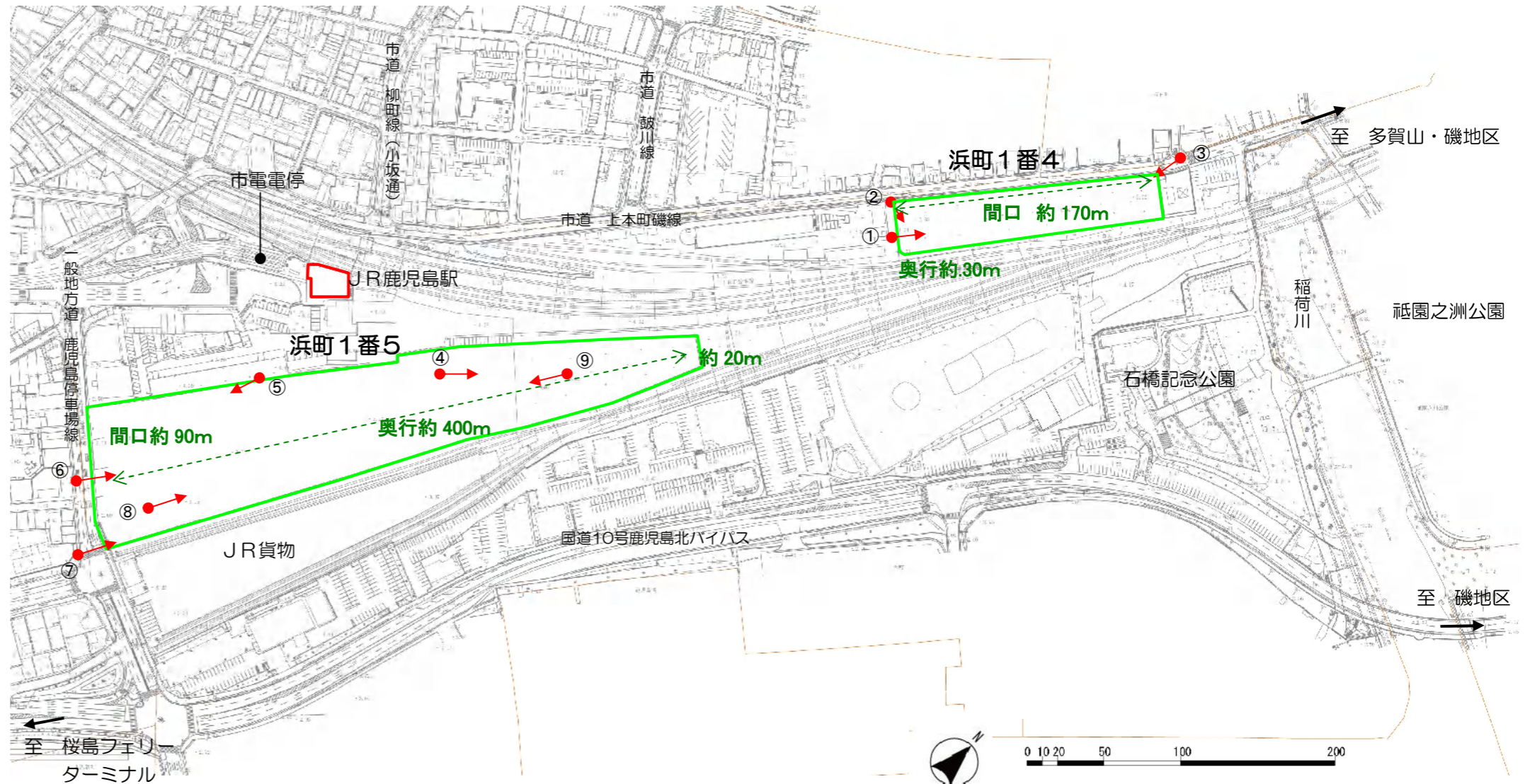
土地の所在	浜町1番4	浜町1番5
地目	雑種地	雑種地
地積 (㎡)	5,417	25,087
計 (㎡)	30,504	
都市計画	準工業地域（建ぺい率60%、容積率200%）	

土地利用検討対象地の使用状況

- ・ 浜町1番4の土地については、一部をマンションのモデルルーム及び販売事務所等として貸し出している状況である。
- ・ 浜町1番5の土地については、一部をバスの停車場やイベント時の臨時駐車場等として貸し出している状況である。

土地利用検討対象地周辺の現況・動向

- ・ 1日に約3,300人が乗降するJR鹿児島駅、約1,500人が乗降する鹿児島市電電停が存在し、JR、市電、バス、タクシー、自家用車等の交通結節点となっている。
- ・ 対象地東側にJR貨物ヤードが隣接しており、現在も使用されている。
- ・ JR貨物ヤードの更に東側、国道10号鹿児島北バイパス沿いにはロードサイド型の店舗が集積している。
- ・ 近くに一日約10,000人が乗降する桜島フェリーターミナルが存在する。
- ・ 国道10号鹿児島北バイパスについては、計画区域の一部である祇園之洲～小川町間が供用されている状況である。
- ・ 仙巖園や尚古集成館のある磯地区を含む「九州・山口の近代化産業遺産群」が世界遺産暫定一覧表に記載され、世界遺産登録への取組が進められている。
- ・ 鹿児島市電の軌道敷緑化、石橋記念公園、祇園之洲公園、多賀山等、緑の空間が多く存在している。



2. 鹿児島駅周辺(上町地区)の鹿児島市上位計画における位置付け

第四次鹿児島市総合計画

- 本市の北の玄関口にふさわしいまちづくりの推進**
 - 旧国鉄用地等を活用し、都市基盤の再整備や高次都市機能等の導入を図り、魅力ある新たな都市拠点を形成する。
 - 鉄道の高架化や国道10号鹿児島北バイパスなど幹線道路等の整備による交通結節機能の強化を図る。
- にぎわいと交流の都市軸の強化**
 - 鹿児島中央駅地区、鹿児島駅周辺地区および本港区といづろ・天文館地区を連携するにぎわいと交流の都市軸の強化を図る。

かごしま都市マスタープラン

“鹿児島本港、城山、磯・多賀山を活かす 海に開かれ歴史にふれあうまちづくり”

- ウォーターフロントとの接点を活かした再整備と活性化**
 - 鹿児島駅周辺、市役所周辺の商業業務地におけるウォーターフロントとの接点を活かした再整備と活性化
- 地区資源の一体的活用による地区の活性化**
 - 城山、磯・多賀山の自然環境・景観、南洲門前通りの歴史的街並み、本港区のウォーターフロントなど地区資源の一体的活用による地区の活性化
- 住宅団地における高齢化社会への対応**
 - 住宅団地における高齢化社会に対応した住環境の改善、交通利便性、防災性の向上

第五次鹿児島市総合計画（平成23年度策定）

<鹿児島市の都市像> **人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ” 実感都市・かごしま**

<上町地区の基本的方向>

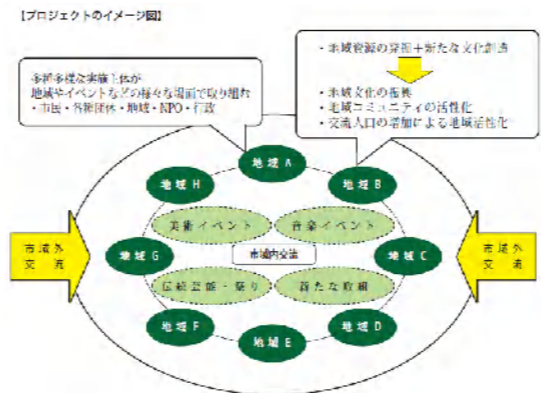
- 交通結節機能の強化や新たな都市拠点の形成**
 - 鹿児島駅周辺地区においては、低未利用地となっている旧国鉄用地等を活用するとともに、交通結節機能の強化や魅力ある新たな都市拠点を形成する。
- 都市景観や観光資源の面からの交通体系検討**
 - 都市景観や観光資源の面から、路面電車や桜島フェリーのさらなる活用策や磯地区の近代化産業遺産と連動した交通体系について検討を行う。
- 地域資源を生かした個性あふれる地域づくりの推進**
 - 公共施設の機能向上を図るとともに、歴史、文化と自然に恵まれた風土などの地域資源を生かした、個性あふれる地域づくりを地域住民の多様な地域活動と連携しながら進める。

<豊かさ実感リーディングプロジェクト>

■“ディスカバーかごしま”文化創造プロジェクト

～みんなで地域文化を育み、地域の活性化につなげます！～

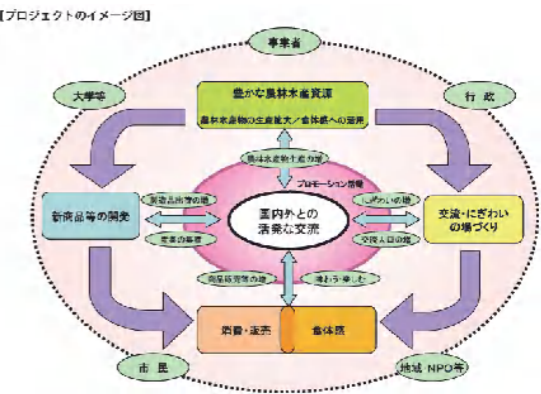
- 地域の伝統芸能やイベントなどの魅力アップや新たな取組の推進
- ◇地域の伝統芸能やイベントなどの魅力アップや地域ぐるみの参加の促進、地域の文化の掘り起こしを行うとともに、新たな取組を推進し、それぞれの地域資源を守り育てます。



■“食の都かごしま”チャレンジプロジェクト

～みんなで「食」を通じた国内外との活発な交流を目指します！～

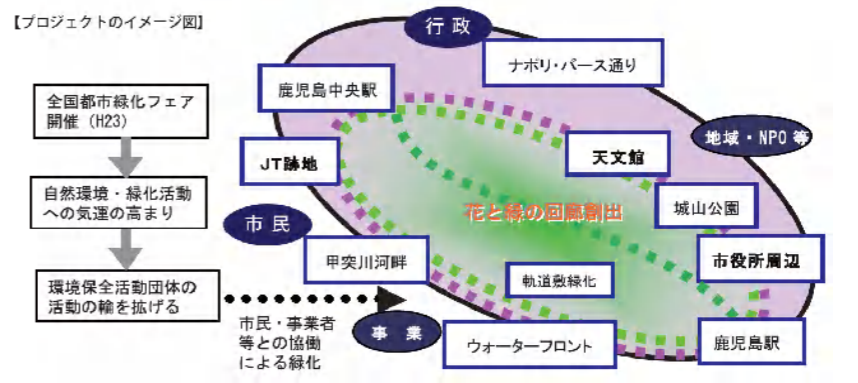
- 交流・にぎわいの場づくりの推進
- ◇観光農業公園や農産物直売所、中央卸売市場などを活用し、「食」を生かした市民・観光客等の交流やにぎわいの場づくりを推進します。



■“花と緑の回廊”環境創出プロジェクト

～環境を保全し、花と緑が彩るまちを創ります！～

- 都市の杜づくり
- ◇J T跡地、市役所周辺、鹿児島駅などを市民が憩える都市の杜（花緑拠点）として、市民等が参画する中で、整備していきます。



3. 土地利用検討の経過と地域住民等からの提言・意見

① 鹿児島駅周辺整備計画と土地利用検討の経過

- 平成16年2月 □浜町1番4及び1番5の土地を取得
- ～平成20年度 □鹿児島県が事業主体である連続立体交差事業と鹿児島市が事業主体である土地区画整理事業において拠点整備用地として活用することを検討
- 平成21年2月 □鹿児島県より「厳しい財政状況やJR貨物の移転、交差道路の付替などの大きな課題があり、連続立体交差事業と土地区画整理事業の実現は、現状では困難である」との見解が示される
- 平成21年度 □鉄道高架化を伴わない場合の拠点施設整備の可能性について多面的に調査し、その効果等の総合的な検証により基盤整備の整備方針を作成
- 平成22年度 □平成21年度作成の「鹿児島駅周辺整備の方針」を基本に基盤整備の基本設計などを実施

平成23年度以降の取組方針として、**基盤整備と並行若しくは先行して単独での土地活用についても検討することを当該土地の取り扱い方針とした。**

② 鹿児島駅周辺のまちづくりに対する提言書（土地利用に関する部分）

鹿児島駅周辺地区地域住民のまちづくりの基本的な考え方 提言書(平成17年1月)

○駅周辺の土地の有効活用

◆新たな機能の誘致

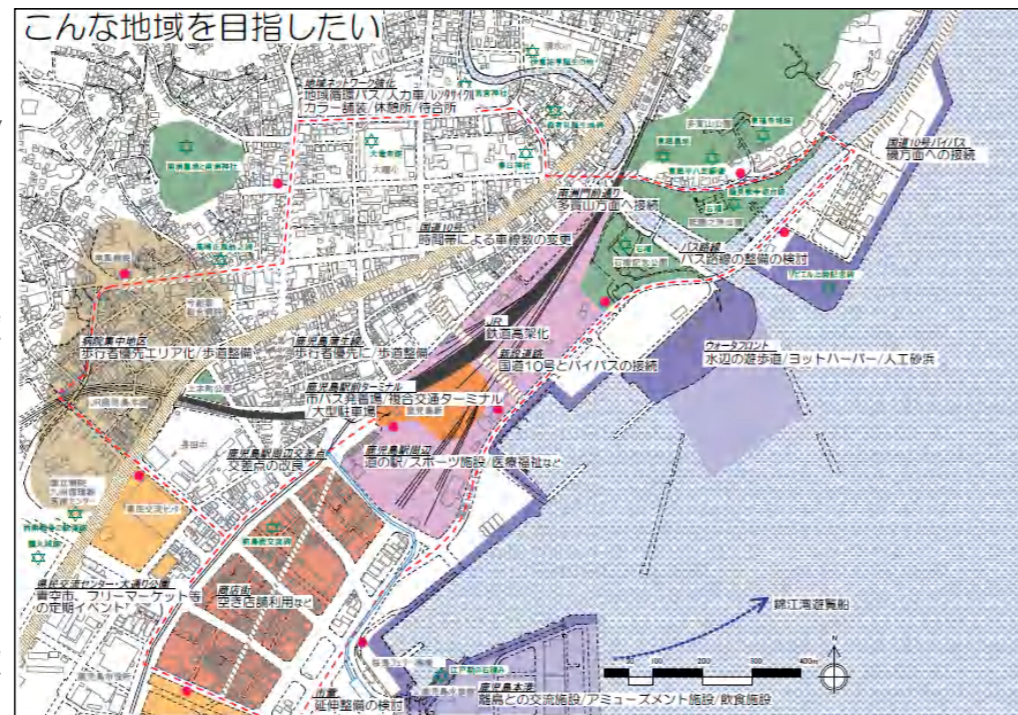
道の駅/スポーツ施設/福祉施設/
救急救命センター/コミュニティ
ホール/観光情報センター/
コンベンションセンター/
ミュージアム/宇宙関連施設など

◆地域の人口増

高齢社会に対応した住宅整備/
二世帯型の高層住宅整備など/
地域の環境への配慮も行う

◆本格的な開発までの暫定活用

離島フェスタや上町夏祭等の
イベントの実施/芝生の広場など



③ 地元説明会や意見交換会などにおける土地利用検討地の土地利用に関する意見等【平成21年度・平成22年度】

分類	主な意見
観光	離島物産などを販売する施設（道の駅など）/観光情報センター/魚類・野菜類など地場食材を販売する市場風施設（フィッシャー・マソウ・ワフなど）
医療	高度医療施設（救命救急センターなど）/質の良い病院
福祉	医療施設を核とした福祉施設/住宅と一体となった福祉施設
運動・スポーツ	体育館/屋外型スポーツ施設/高齢者向け健康増進施設
公園・緑地	多目的広場・緑地/高齢者が憩える公園・緑地/子供向け遊び場スペース/芝生広場
居住・暮らし支援	子育て支援施設（保育園など）/塾のまち/高齢者対応住宅、二世帯型住宅、市営住宅（子育て世帯向けなど）
地域コミュニティ	総合コミュニティセンター/市民利用のイベントスペース
交通	パークアンドライド用の駐車場（中心市街地の外周駐車場、磯方面への観光駐車場など）/交通アクセス拠点（フェリーへのアクセス拠点、市営バスの終点など）/電気自動車の充電スタンド
その他	宿泊施設（離島から病院へ来院する方のための宿泊など）/起業家を受け入れる施設（起業家支援施設など）/小さなショップが安い賃料で集まる施設（チャレンジショップなど）/天文館、鹿児島中央駅とは差別化が必要

■地域住民の意見要約

・代表的な意見は、「観光」、「公園・緑地」、「運動・スポーツ」に関するものであり、このほか、「医療・福祉」や「地域コミュニティ」に関する意見も多く出されている。

4. 土地利用検討委員会で示された現況・問題点及び課題と対応方針

	現況・問題点	ポテンシャル	課題と対応方針
土地利用の理念	○上町は人の“におい”がし、自然や歴史のあるまちであるが、その魅力を十分に発揮できていない。	○新たな土地利用により、鹿児島駅周辺で上町の良さを含めて「鹿児島」を感じてもらうことが可能である。	<p>■ 「まちの風情」を大切にすることが必要</p> <p>○新しいものと緑や静けさ、歴史、景観を融合させる。</p>
土地利用の方針	○もともとは鹿児島駅が本駅だったが、いまではその役割が鹿児島中央駅に移っている。	○鹿児島中央駅と役割分担を図ることにより鹿児島駅及びその周辺が生まれ変わる可能性がある。 ○また県外からの集客も期待できるようになる。	<p>■ 鹿児島中央駅との差別化</p> <p>○緑を生かした整備とするなど、鹿児島中央駅とはまったく逆の方向を指向する。</p>
	○鹿児島駅周辺には、仙巖園や新波止砲台跡の間近を往来する桜島フェリー、南洲神社や福昌寺跡をはじめとする神社仏閣等、地域資源が豊富に存在する。	○これらの地域資源を紡ぎ合わせるにより、鹿児島駅周辺らしさ・上町らしさを演出することが可能である。	<p>■ ローカリティの活用</p> <p>○地域資源を活用し、地域文化やコミュニティを大切にすること。</p>
	○人の流れが少なく、昼夜の交流人口が減少し、鹿児島駅周辺は寂れてきた印象がある。	○観光客、市民、地域住民が楽しめる施設を導入することにより活気の復活が期待できる。	<p>■ にぎわいの創出</p> <p>○にぎわいの施設を導入し、活発な人の動きを誘発する契機とする。</p>
導入機能	○上町地区には「緑」が不足している。	○鹿児島駅から眺めるとこれまでに植栽された樹木が大木に育ち、木々の緑がまちと溶け込んでいる。 ○市電の軌道敷緑化と調和した「都市の杜」（花緑拠点）をつくれば、まちに花と緑の回廊が生まれる。	<p>■ 緑空間の整備</p> <p>○花と緑の回廊を形成し、まちに溶け込む緑、森の中の駅・まちを目指す。</p>
	○上町にはかつて南九州最大の「市」があり、商店街発祥の地でもあったが、今では寂れている。	○歴史的背景にもとづき、「市」をキーワードとする土地利用が可能である。	<p>■ 「市」の形成</p> <p>○歴史的背景を生かした、観光・物産・交流等に資するような「市」を展開する。</p>
	○JR、市電、バス、タクシーなどが集中し、交通結節機能が形成されている。 ○特に始良方面からの交通結節点となっており、玄関口として機能している。 ○磯地区が世界遺産登録されれば現地に観光バス駐車場が設置困難となる。	○市電・駅至近の交通結節機能が高いため、パーク＆ライドへの取組に可能性がある。 ○市電、JR駅舎を含んだインフラ整備により、交通結節機能のさらなる強化が可能である。	<p>■ 交通結節機能のさらなる充実</p> <p>○パーク＆ライド駐車場や観光バス駐車場を整備するとともに、市電とJR駅との結節性等を強化する。</p>
空間の使い方	○祭りなど地域イベントで臨時的に利用できる空間が不足している。	○大規模敷地であるため、イベント等にも対応できる空間を用意することが可能である。	<p>■ フレキシビリティの確保</p> <p>○イベント対応やハレ（非日常）とケ（日常）など、フレキシブルな場面転換を可能とする空間を構成する。</p>

5. 土地利用の基本コンセプト・基本方針

上位計画の視点

第五次鹿児島市総合計画（平成23年度策定）

◆鹿児島市の都市像

人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま

◆上町地区の基本的方向

- ・交通結節機能の強化や新たな都市拠点の形成
- ・都市景観や観光資源の面からの交通体系検討
- ・地域資源を生かした個性あふれる地域づくりの推進

◆リーディングプロジェクト

- “ディスカバーかごしま”文化創造プロジェクト
- “食の都かごしま”チャレンジプロジェクト
- “花と緑の回廊”環境創出プロジェクト

地域住民の意見

◆これまでの地域住民からの土地利用に関する意見分類

【分類】

- ・観光
- ・医療、福祉
- ・運動、スポーツ
- ・公園、緑地
- ・居住、暮らし支援
- ・地域コミュニティ
- ・交通 等

土地利用検討委員会で整理された計画地整備に向けた課題

- ・「まちの風情」を大切にすることが必要
- ・鹿児島中央駅との差別化
- ・ローカリティの活用
- ・にぎわいの創出
- ・緑空間の整備
- ・「市」の形成
- ・交通結節機能のさらなる充実
- ・フレキシビリティの確保

基本コンセプト・基本方針

土地利用の基本コンセプト

地域資源を生かし、交流・にぎわいや花と緑にあふれる、
北の玄関口にふさわしい新たな都市拠点の形成

土地利用の基本方針

- ・花と緑が印象的な空間とまちの風情の創出
- ・豊かな地域資源の活用とまちの記憶の継承
- ・人情味や暮らしの中心となる活気のある空間
- ・交通の結節点として方々からの人の来訪
- ・様々な利用に対応できるフレキシブルな場面転換

3つの導入機能

緑の空間

- ・安らぎ、憩い
- ・健康増進、スポーツ
- ・イベント利用 等

市(いち)・ にぎわい

- ・観光、物産
- ・交流、コミュニティ
- ・イベント利用 等

交通結節・ 駐車場

- ・観光バス
- ・パーク&ライド 等

6. 土地利用ゾーニング

土地利用の基本コンセプト

地域資源を生かし、交流・にぎわいや花と緑にあふれる、
北の玄関口にふさわしい新たな都市拠点の形成

土地利用の基本方針

- 花と緑が印象的な空間とまちの風情の創出
- 豊かな地域資源の活用とまちの記憶の継承
- 人情味や暮らしの中心となる活気のある空間
- 交通の結節点として方々からの人の来訪
- 様々な利用に対応できるフレキシブルな場面転換

「緑の空間」ゾーン

- **安らぎ・憩い**
 - 花と緑の彩りにあふれ、心地よく憩い・安らぐことのできる「都市の杜」
- **健康増進・スポーツ**
 - 散歩、ジョギング等のスポーツなど多様な利用
- **イベント利用等**
 - フリーマーケットや郷土芸能披露等のイベント等での利用

「市(いち)・にぎわい」ゾーン

- **観光・物産**
 - 鹿児島、上町の歴史や文化を体験・体感できる機能
 - 地元の特産品や味を楽しめる物産・飲食施設
 - イベント開催が可能な広場 等
- **交流**
 - 観光客、市民、地域住民の交流・コミュニティスペース 等
- **イベント利用等**
 - フリーマーケットや郷土芸能披露等のイベント等での利用

「交通結節・駐車場」ゾーン

- 隣接ゾーンやパーク&ライド等での利用のための駐車場
- 観光バス駐車場を確保 等



都市の杜イメージ



緑の空間イメージ

花の彩りイメージ

イベント利用等イメージ

(都市公園の指定を想定せず、様々な利用に柔軟に対応できる空間とする)



フリーマーケット

屋外ステージ



地域芸能披露

地域芸能披露



観光・物産、交流イメージ



観光系施設イメージ



物産系施設イメージ

浜町1番4の土地利用について

(土地利用検討委員会における取り纏め)
 ・浜町1番4は駅からの距離も遠く、また、JR線路に近接しているという立地環境等から、にぎわい施設の立地には適さないと考えられる。
 (地域住民の意見、要望)
 ・市営バスの起終点を市役所前から鹿児島駅前に移すことの強い地域要望がある。
 ・浜町1番4の土地利用にあたっては通勤時間帯等に交通の負荷をかけない土地利用が望ましい。
 (現状)
 ・現在、浜町1番5の一部を鹿児島市交通局のバス駐車場として利用しているが、浜町1番5の土地利用後は、市営バス駐車場を近辺に確保することが望ましい。

⇒浜町1番4は鹿児島市交通局のバス事業用地としての利用を想定する。

※ 駅周辺の基盤整備については検討中のものを図化したものであり、写真は土地利用イメージの一例として掲載。

7. 地域住民との意見交換会で出された意見と対応

【開催日】

○平成24年1月16日（月）、18日（水）、19日（木）

【出席者】

○町内会長・通り会会長、地域まちづくり団体等

【総括】

○迅速な土地利用の具体化に対する期待感や3つの導入機能に対する要望が示されるなど、総じて「鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方（中間案）」に対して前向きな意見交換となった。

○浜町1番5を対象とした新たな土地利用の効果を周辺地域へどう波及させるかなど、次の段階に向けた課題認識も示された。

○浜町1番4の土地利用については、前面の市道上本町磯線の交通負荷の発生について懸念が示された。

○JR鹿児島駅駅舎や駅前広場など基盤整備に対する質問も多く出され、土地利用と同様、関心の高さが伺えた。

【主な意見と対応】

分類	主な意見内容	今後の対応方針
利用者・ターゲット	・地域住民利用に加えて県外からの観光客増を期待	・平成24年度以降に実施する土地利用基本構想・基本計画を策定するなかで検討
導入機能・ゾーニング	緑の空間 ・多賀山、城山、中央公園など既存の緑空間と差別化を図った独自の特色が必要 ・オープンスペースを基本としたイベント利用等ゾーンにおける屋外ステージ等の建物設置を検討することも必要	
	市（いち）・にぎわい ・イベント依存では来客が途切れるため、定常的な集客力のある土産センターなど常設施設が必要 ・観光客に対して判りやすい案内板や標識などのサイン計画が必要	
	駐車場・交通結節 ・自転車観光のニーズが今後伸びると予測されることを踏まえた計画が必要	
周辺への回遊・波及効果	・上町の多様な地域資源、石橋記念公園、桜島フェリーターミナルなど周辺とのネットワーク・回遊動線の確保が必要 ・観光客など外からの来訪者を周辺地域へ誘引し、周辺地域の商いに繋がるまちづくりが必要 ・地域住民が自分たちで工夫し考えることも重要	・当面は浜町1番4及び1番5の迅速な土地利用具体化に注力。今後の課題として、地域住民等と協働しながらハード・ソフトの方策を検討
鹿児島駅周辺の一体的展開	・浜町1番5の土地を含めた鹿児島駅周辺の一体的な土地利用展開が理想	・当面は浜町1番4及び1番5の土地利用の具体化を迅速に進めるため、次の段階の中長期的な取組としてあり方を検討

8. 今後の課題

以下の項目については、平成24年度以降に土地利用の基本構想・基本計画を作成する中で検討を行っていく。

【課題1：土地利用・導入機能の詳細・具体化】

○平成23年度では土地利用ゾーニング・導入機能の方向性を整理した。これを受け24年度においては、今年度同様の検討体制のもと、下記事項の検討を深めることにより、土地利用・導入機能の詳細・具体化を図る必要がある。

＜検討事項＞

- ・導入機能毎の施設内容、施設規模
- ・導入機能間の連携方法
- ・概算事業費
- ・事業スケジュール
- ・事業手法 など

【課題2：浜町1番5におけるインフラ計画】

○土地利用・導入機能の詳細・具体化にあわせ、浜町1番5における道路配置や供給処理など必要なインフラ整備を計画する必要がある。また、道路計画にあたっては、交差点処理を中心とした交通計画も行う必要がある。

【課題3：JR鹿児島駅周辺の基盤整備との接続計画】

○上記検討にあわせ、JR鹿児島駅と「市（いち）・にぎわい」ゾーンとの接続方法を検討する必要がある。

○また、浜町1番5における計画道路の円滑な交通処理を補完する為、鹿児島駅前広場との接続方法についても検討する必要がある。

【課題4：周辺地域への回遊・波及効果の検討】

○上記検討にあわせ、新たな開発と周辺地域との間に回遊性が創出され経済波及効果も実現するよう、地域住民と協働して必要な施策を検討していく必要がある。

＜検討事項＞

- ・周辺地域へ人を誘引する仕掛け・方策などソフト施策
- ・判りやすい案内サインなどハード整備 など

(参考資料)

鹿児島駅周辺土地利用検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 鹿児島市浜町1番4及び1番5（以下「当該地」という。）の土地利用の方向性について協議及び検討するため、鹿児島駅周辺土地利用検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、当該地の土地利用の方向性について協議及び検討し、その結果を市長に報告する。

(組織)

第3条 委員会は、委員12人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体等を代表する者
- (3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、平成24年3月31日までとする。

(委員長等の職務)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれらを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、委員会の会議（以下「会議」という。）の議長を務める。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、委員長が必要に応じて招集する。

2 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、建設局都市計画部市街地まちづくり推進課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成23年9月9日から施行する。

(委員構成)

区分	部門	所属・役職	氏名（敬称略）
学識経験者	経営	鹿児島大学法文学部経済情報学科 教授	宮 廻 甫 允
	地域計画	鹿児島大学法文学部経済情報学科 教授	北 崎 浩 嗣
	環境	鹿児島県立短期大学生活科学科 教授	多々良 尊 子
	観光	財団法人鹿児島観光コンベンション協会 コンベンション誘致部長	林 川 尚 彦
	景観	era色彩計画 代表	江 良 喜代子
	歴史	NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 代表理事	東 川 隆太郎
関係団体等を 代表する者	町内会 通り会	鹿児島駅周辺地区まちづくり協議会	堀之内 繁
		鹿児島駅周辺地区まちづくり協議会	白男川 真理子
	活動 団体	上町タウンマネジメント 代表幹事	内 村 文 泰
		上町タウンマネジメント	鮫 島 京 子
		上町維新まちづくりプロジェクト 代表	春 山 亮
関係者	九州旅客鉄道株式会社総合企画本部経営企画部 担当課長	西 川 佳 祐	
委員以外で委員長が 必要と認める者	有限会社オフィスフィールドノート 取締役	砂 田 光 紀	

(開催状況)

平成23年10月 4日 第1回 鹿児島駅周辺土地利用検討委員会
11月14日 第2回 鹿児島駅周辺土地利用検討委員会

「鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方（中間案）」作成

平成24年1月16日、18日、19日 地元意見交換会

平成24年2月3日 第3回 鹿児島駅周辺土地利用検討委員会

「鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方（案）」作成

【写真出典（P6掲載）】

- ・緑の空間イメージ (<http://jake0308.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/index.html>)
- ・花の彩りイメージ (<http://terfel.net/200906/post-21.html>)
- ・フリーマーケット (<http://www.city.gotsu.lg.jp/2985.html>)
- ・地域芸能披露 (http://www.kanagawa-kankou.or.jp/event/ev_detail.php?eid=ek0238)
- ・駐車場イメージ (<http://web.pref.hyogo.jp/wd03/documents/000149837.pdf>)
- ・観光バス駐車場イメージ (<http://www.ichiba-parking.jp/reserve/index.php>)